

## 萩ノ尾古墳

萩ノ尾古墳は 6 世紀後半のものと推定され、大牟田市の南部の丘陵にある。東西 15m、南北 19m、高さ 4m の規模を誇る。入り口は西向きで長さ 8.2m、玄室は東向きである。内部のドーム型の石室は奥行き 2.9 メートル、幅 2.6 メートル、高さ 3 メートルで、凝灰岩の巨石で覆われている。この規模から、萩ノ尾はかなりの影響力を持った人物の墓であったと考えられている。

この古墳は数世紀前に開墳されているため副葬品は残っていないが、石室の壁画は注目に値する。船や盾、幾何学模様が、赤い酸化鉄顔料で壁に描かれている。江戸時代（1603 年～1867 年）に古墳内に安置された仏教の観音菩薩と弁財天の像 2 体が、現在、入口の外にある建物内に展示されている。観音像には 17 世紀初頭の銘が刻まれている。

萩ノ尾古墳は国の史跡に指定されており、壁画を保護するために、玄室の扉は鍵がかけられている。壁画を見るには、萩ノ尾バス停近くの「フードショップ平山」で鍵を借りる必要がある。

## 潜塚古墳

潜塚古墳は、大牟田市の南西に位置する直径約 30 メートル、高さ約 7 メートルの円墳で

ある。1959年に発見された。副葬品から4世紀に造られたと考えられている。九州で非常に古い古墳のひとつである。

発掘調査により、南北方向に置かれ、頭部が北を向くように置かれた2つの棺が発見された。東側に置かれた古い方の棺は凝灰岩製で、西側に置かれた2つ目の棺は砂岩製であった。管玉、陶器の破片、金属製の矢じり、鉄剣、その他の金属製品が、棺とその周辺から発見されている。2世紀前半から半ばにかけて中国で製造された銅鏡も、両方の棺から発見されています。

潜塚古墳は国の史跡に指定されており、副葬品は三池カルタ・歴史資料館で展示されている。

### **黒崎観世音塚古墳**

黒崎観世音塚古墳は1994年に発見され、4世紀に築造された。黒崎山の標高58メートル地点にあり、有明海を望む場所に築造された前方後円墳としては最大規模を誇る。石室は未調査のままだが、古墳の石材は熊本で切り出されたもので、専門家は有力な指導者が埋葬されていると推測している。古墳の高さは10メートル、長さ100メートル、最も幅が広いところで幅は36メートルである。円形部分の直径は27メートルである。

また、古墳の頂上からは、平安時代（794年～1185年）の銅製と土製の空の経筒発見された。12世紀には、病気や災害、悪霊を鎮めるために経典が埋められていた。紙製の経典は容器の中で朽ち果てたものと考えられている。

現在、古墳の頂上には、古墳の名称の由来となった観音菩薩を祀る小さな仏教寺院が建っている。黒崎観世音塚古墳は、福岡県の重要文化財に指定されている。